



「おいしいまつり」大盛況!!
楽しみにしてたよ♪



お友達や家族で笑顔と微笑ましい光景が溢れている会場は大盛況!!



自分で作れるなんて
ワクワクする!



お店やさんの
裏方仕事も任せて!



先生たちは、魔法を使うようにすべての人たちをニコニコに♪



実行委員 保育士 川窪さん

理事長 深澤さん

おまつり部会長 中込さん

実行委員長 加藤さん



愛の込められた手づくりはどれも温かくて美味しい♪ 体もココロもほっこり♡

巻頭特集 童心を揺り起こす「おいしいまつり」のエネルギー

おいしそうな食べ物が集まるイベントは、それだけで魅力があるけれど、台風22号の大雨の中で開催された「おいしいまつり」という名のイベントは、低気圧の憂鬱さをまったく感じさせない上向きなエネルギーに満ちていた。靴が泥だらけになるうと、雨よけテントが破れようと、とめどなく溢れるポジティブエネルギー。実際にイベントをめくり、主催者たちの声を集めた。

楽しいことを真剣に計画する 35年目も大盛況の背景

傘もささず走って帰る子どもたちと、子どものような無邪気さを醸す大人たち。大明保育所で開催された「おいしいまつり」は、人の心に眠る童心を呼び起こすようだ。出店者も、来場者も、好奇心をまったく隠せておらず、ワクワクニコニコ。台風22号接近による大雨の中だったぶん、集まった人の明るいエネルギーがより際立って見えた。

「おいしいまつり」は、「社会福祉法人おひさまポッポの家」と「大明保育所」が現在合同で行っている保育園の祭りだ。今年で35周年。実行委員であり、保育士の川窪めぐみさんはイベントの来歴をこう教えてくれた。

「はじめはポッポの家が単独で行う遊休品を扱った小さなバザーでした。規模もポッポの家の庭で開催するくらい。それが、2園で開催するようになり、手作りアクセサリーや食べ物が出店が増え、あれもやりたい、これもやりたいでどんどん大きくなりました。場所も甲西支所に移して、そして今の大明保育所に

なりました。何が凄いかというと、お手伝いしてくれている人の3分の2がどちらかの園の卒園児の父兄さんというところでしょー」

雨よけテントの下とテラス、ホールにぎゅっと凝縮された店舗を見渡すと、エプロン姿の大人たち。子どもはもう成人したという卒業生のお父さんも珍しくないのだけれど、誰もがイベントの当事者としてそこに居る。どうしてそんなに皆協力的なのか?と尋ねると、「やってみて楽しいから」と中込朝生実行委員長の答えはシンプルだった。

手応えがあるから成長し、 いつもの繋がりが場をつくる

「子どもを楽しませちゃおう、というのが売り上げの使い方」と言うように、「おいしいまつり」の収益はすべて、親子の為にイベントや活動に使われる。「それならば、売り上げを立てる場、自体も楽しい方がいい。何事も人を巻き込むなら、やってみる方がまずは楽しむことが大事ですから。やっている方が楽しいと、何も伝わりませ

ん。楽しいを追求して、手応えを辿っていたら今のカタチが出来上がっていました。」
こう話すのは理事長の深澤敏弘さん。遊休品のバザーから、おいしいものを主役に変容してきたのは、食べ物販売することで、「親子一緒に、つくる、売る」と「食べる、買う」に関わることでできるから。その経験が子どもの中で、「楽しい」の手応えとなり、原体験の一つとして残る。そうすると子どもはもっとやりたくなる。大人ももっと味わいたくなる。こうして「楽しい」を求める動きが強くなり、どんどん面白くなっていく。35年間成長しながら続く背景には、やはり運営側の意図がちんと働いていることも見逃せない。

「ちなみにね、子どもたち以上に大人が楽しいんですよ。子どもたちを楽しませる以上に、自分たちが楽しんでますよ」と、実行委員長の加藤邦一さん。子どもたちを通して色んな輪が広がり、父兄たちにも繋がりができる。それは子どもが在園している頃からの古い繋がりが新しい繋がりがだったり、最近できたものであったり様々。「おいしいまつり」の一体感は、いくつもの繋がりが層になり重なって、ブレない場となっているからなのだろう。

関わる人たちの日常を ちょっと賑やかにしてくれる

オープンングで太鼓を演奏する孫を泣きそうになりながら見つめるお婆ちゃん、男親だけで運

営する喫茶店、3世代で訪れて飲食を楽しむ家族。「おいしいまつり」の場そのものから立ちのぼる空気は、人を楽しくさせてくれる何かを含んでいた。その場にいる人誰もが、「おいしいまつり」を応援するファンであり、「おいしいまつり」を自分たちで創り上げていることに誇りに思っている様子だった。だからこそ雨にも負けなしいし、協力を惜しまず真剣に準備をする。

地域や人との繋がりが、童心や好奇心は、日々のあれこれがついて失ってしまいうる。ワクワクを感じる心を取り戻して、日常をもう一度新しく…。おいしいまつりは、大人に堂々と意見できる子どもと子どもに戻って体験することを恥じない大人を歓迎する、豊かな体験をくれる希少な場として、世代を超えて守られていくのだろう。

南アルプス市立 大明保育所
山梨県南アルプス市結沢1063-1
055-282-1307

社会福祉法人おひさまポッポの家
山梨県南アルプス市荊沢175
055-283-1116

